

令和2年度

いのち・愛・ゆめセンター（豊川・沢良宜・総持寺）における事業概要

【概要】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、3月9日から5月31日まで貸館業務等は休止としていたが、相談事業は継続して行った。6月1日からは、貸館業務を利用定員の50%以下とするなど感染拡大防止対策を講じたうえで事業を再開し、10月1日からは利用定員を100%（3密対策等の利用条件あり）に戻して実施した。コロナ感染拡大（第3波）による緊急事態宣言発出を受け、1月14日からは貸館時間を午後8時まで、貸館の利用定員を50%以下とし、現在も運用を継続している（令和3年2月16日現在）。コロナ禍において、センター事業の中止や規模縮小等を余儀なくされたが、関係団体等とも連携し、創意工夫により事業推進に取り組んでいる。

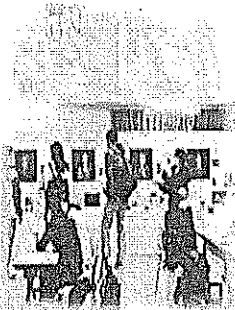
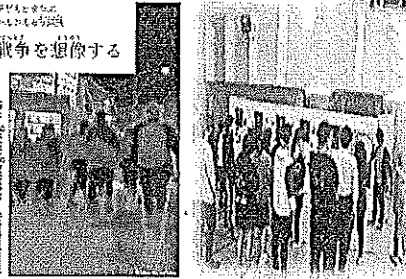
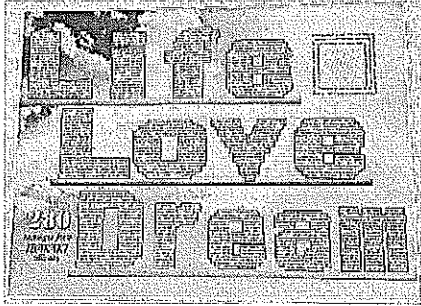
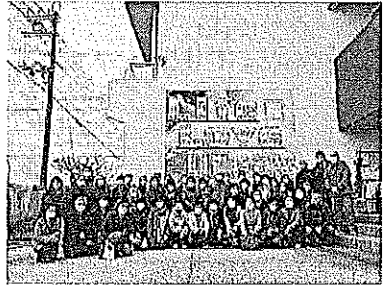
【取り組んだ主な事業内容】※新規事業や特記すべき事業を掲載

事業名	くらし設計支援事業	総合相談事業	コロナ対策を講じた既存事業の実施
内容	<p>内容： コロナ禍による経済不振への対応として、くらしの不安や生活困窮状態に陥らないための早期支援を強化。地域で相談を拾いあげるとともに、福祉部門へ適切につながることを主な目的とし、今後の生活に不安を抱える家庭などを対象に、専門員による「くらし設計相談」を実施している。 ※令和2年度新規事業（令和2年10月から実施）</p> <p>専門員：FP資格を有する社会保険労務士</p> <p>実施方法：①直接相談 専門員による直接相談 ②間接相談 専門員から総合相談員への指導及び助言 ※各館及び本庁 各1回/月実施</p> <p>周知：HP及び広報誌への掲載、チラシ配布等</p> <p>実績：【豊川】実施回数 3回 相談件数 9件 【沢良宜】実施回数 4回 相談件数 8件 【総持寺】実施回数 4回 相談件数 6件 (令和3年1月末現在)</p>	<p>内容： センターの基幹事業である総合相談事業は、人権をはじめ、暮らしの中で生じる様々な相談に応じ、相談者に寄り添いながら、関係機関と連携し、課題解決に取り組んでいる。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、コロナ禍に起因する各種給付金等の手続き相談や減収・解雇等による生活不安の相談等が増加した。</p> <p>相談件数： 【豊川】 839件（うちコロナ関係121件） 前年度相談件数 503件 【沢良宜】 727件（うちコロナ関係112件） 前年度相談件数 557件 【総持寺】 735件（うちコロナ関係52件） 前年度相談件数 714件 (令和3年1月末現在)</p> <p>コロナウイルスに関する主な相談内容： ・特別給付金や休業補償給付金、あんしん給付金等の手続き方法 ・家族が感染したことによる職場との関係 ・休業により減収し、生活していくことが困難 ・両親がコロナを機に外出しなくなり、体力減退と物忘れ等が激しくなっている など</p>	<p>内容： 各館とも、新型コロナウイルス感染症により従来の実施方法では開催が難しい事業等は、内容や手法等を工夫して実施している。</p> <p>工夫した事業： ① 識字・日本語教室 広い会場の確保、分散開催（週1回を週3回にする等）、オンライン学習への切り替え、フェイスシールドの貸出、各館合同オンライン交流会の開催など</p> <p>② 貸館利用月初受付（翌月利用申込分）の見直し これまで先着順だった月初受付を見直し、抽選制の実施や、郵送・メール申込を可能にする等、感染症への対策をおこなった。</p> <p>③ 障害のある人もない人ももつくるアート展 総持寺のみでの実施を、コロナ対策として観賞者の分散化や利便性の向上のため全館で実施。各館の利用者が制作した各館限定作品を展示するなど、館ごとに趣向を凝らした。</p> <p>④ 貸館事業等 来館者及び職員のマスク着用、定期的な換気及び手指消毒の徹底、備品消毒の徹底、貸室の定員制限、事業実施時の参加者への検温等</p>

令和2年度

各いのち・愛・ゆめセンターにおける主な独自事業

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染防止対策を講じながら独自事業に取り組んだ。具体的には、来館者の分散と3密対策を意識した展示会、ステイホーム疲れした子ども達に向けたイベント、今だからできる市や地域への期待や想いの共有イベントなど趣向を凝らして実施した。

館名	豊川いのち・愛・ゆめセンター	沢良宜いのち・愛・ゆめセンター	総持寺いのち・愛・ゆめセンター
事業名	写真展	壁面アートプロジェクト	子ども対象事業の充実
内容等	<p>内 容：地域の写真家の方の協力を得て、平和に関する写真展を開催。平和についての啓発の一つの手法として、有意義であることが確認できた。子どもに向けた人権についての啓発として写真講座を次年度複数回開催する予定。</p> <p>子どもとまなぶ かんがえる写真展「戦争を想像する」戦後生まれの4人の写真家の作品を通して、戦争を想像してもらい、自分事として捉えてもらえることを目的に開催。</p> <p>コリア国際学園の全校生徒、識字日本語教室の講師受講生等たくさんの方に見てもらい、写真家方から講義も受けて、考えを深めてもらいました。</p>  	<p>内 容：本館の大規模改修により、装いを新たにするセンターが、今後も親しまれ、愛されるセンターとなるように、エントランスの壁面をアート化するプロジェクトを地域団体等と協力・連携して実施した。市民の皆さまから募集した地域への想い等のメッセージが280件集まり、すべてのメッセージをアートに包み込み完成した。令和3年1月7日に多くの地域住民が参加し、除幕式を行った。後日、J:COMの地域番組で除幕式の様子が放送された。</p>  	<p>内 容：コロナ禍により、ふれあいや体験の機会が減少した子ども・子育て世代を対象とした取組みを強化。自宅や少人数で楽しめる講座やイベントなどを中心に実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①プログラミング講座を定期開催 不定期開催（昨年度） →今年度は月1回から月2回開催と増加 ②バケツDE稲作体験 メールでのやりとりによる自宅での稲作体験 ③カブトムシの無料配布 200人を超える応募あり、抽選で約百数十匹を配布 ④追手門学院Candle Nightとのコラボ ペーパーバッグアートでオンラインイベントへ参加 ⑤子ども向けギター講座の開始 少人数で音楽にふれる体験講座を実施 など 